

S-mail

スマイル食と畑に笑顔のネットワーク

(S)は静岡のS、新鮮のS、スマイルのS。(Mail) (郵便)は、そんな静岡の新鮮情報、いい物情報をご家庭にお届けするという意味。静岡とあなたを(S-mail)で結ぶミニマガジンです。

ご自由にお持ち帰りください。
静岡発
#61

静岡
の
お米

静岡県は県民一人当たりの米の購入額全国一という、お米好きの消費
県。県内で生産される米だけではまかないきれず、全国の米どころから
人気のブランド米が集まっています。

県内の米産地では、「お米大好きな県民に選ばれる米」を目指し、新品
種の導入、付加価値の高い栽培方法、地域による産地化に向けてさまざ
まな努力を行っています。

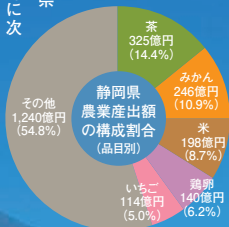
静岡の米の産地を掘り起こす

一方で米の生産を取り巻く環境は大きく変化し、県内でも水稲専門技
術者の減少、種子法廃止による優良種子の供給問題等、米作りの根幹に
関わる事態に直面しています。

今回のスマイルは、お米大好きな消費者の皆さまに、地元でおいしいお
米を作る・売る・買うというまっとうなサイクルを持続可能にする県内各
産地の取り組みをご紹介します。

静岡の米の今

静岡県には熱海市を除くほぼ全市
町に約22,500ヘクタールの水田が
あります。ここで生産される米は、静岡県
で生産される農作物のうち、茶、みかんに次
いで第3位の生産額。平成30年データで8万トンを生産し、ほぼ
全量が県内で消費されています。



主食用米は静岡県で消費された22万トンのうち36%を県
内でまかない、残り14万トン(64%)は県外産の米。すなわ
ち県産米を消費する県民は、静岡県人口約365万人

のうち3割強(約131万人)にとどまっているという
状況です。

家計調査(2016、2018年の平均)による

と、米の購入金額は静岡市が全国2位、浜松市が5位。購入数量は静岡市が全国2位、浜松市4位。山海の食材に恵まれ、お茶をよく飲む静岡県民は日本屈指の米消費県でもあります。ごはんをよく食べる静岡県民の需要にしっかりと応えられるよう、県や経済連は静岡県の土地柄に合った奨励品種を、各産地に紹介し、産地ならではの強みを活かしたブランド米の確立を呼びかけています。

適正に管理された水田は、美しい景観、洪水調整、気候緩和など多様な機能を有するといわれます。水田機能の維持・継承には、県民の多様な需要に応える生産力が不可欠であり、付加価値の高い産物を生み出す経営体と、これを支える担い手を育成することが強く求められています。

全国の自治体では行政と生産団体が「丸」となっており、新品種の育種や消費拡大を図っており、ゆめびりか（北海道）、青天の霹靂（青森）、だて正夢（宮城）、つや姫（山形）、新之助（新潟）、富富富（富山）、いちほまれ（福井）、おいでまい（香川）のような新たな「当地米が大消費地での評価を高めています。

各地域の米産地について県農林事務所の方々は、次のように語っておられました。「今後、静岡県において、県民が求める地元ならではの高品質な農作物加工品を提供し、水田の多面的機能を維持継承するため、限りある資源を有効活用すべく現場で努力し続ける生産者・技術者の存在を、多くの皆さまに知っていただければと願っています。」

今回は、静岡県を4つの地域に分けて、県農林事務所の方々に静岡県内の素晴らしい米とその取り組みを紹介いただきます。

私たちJAグループは、行政と一体となって「静岡県産米」の安定生産と品質向上を図り、県民の皆様への真託に応えていきたいと思っております。



JA静岡経済連食糧部 部長 倉久史 名

■問合せ／JA静岡経済連 食糧部食糧課 TEL 054・284・9738

S-mail

#61 INDEX

特集 / 静岡の米の産地を掘り起こす	
静岡の米の今.....	01
静岡県に適した米の品種	03
静岡県農林技術研究所 亀山 忠さん	
優良種子の生産と供給	05
静岡県米麦協会事務局 古川信好さん	
菊川市種子生産組合 八木明雄さん	
JA静岡経済連菊川種子センター 松村雅史さん	
東部平野の米	07
静岡県東部農林事務所 井草 茂さん	
土屋 寿樹さん	
中部平野の米	09
静岡県志太榛原農林事務所 金田 智さん	
中遠平野の米	11
静岡県中遠農林事務所 宮田 祐二さん	
西部平野の米	13
静岡県西部農林事務所 石田 義樹さん	

米の品種

静岡県に適した米の品種

静岡県の奨励品種

県では、静岡県の土地柄に合った品種を「奨励品種」として生産者に紹介し、品種の特性や栽培方法等のさまざまな技術支援やアドバイザーを行っています。
現在、静岡県の奨励品種に指定されているものは次のとおりです。

品種名(育成地)	静岡県が奨励品種に採用した年月
コシヒカリ(福井県農業試験場)	昭和57年4月
キヌヒカリ(農林水産省北陸農業試験場)	平成3年3月
ひとめぼれ(宮城県古川農業試験場)	平成4年4月
峰の雪もち(農林水産省北陸農業試験場)	平成4年4月
五百万石(新潟県農業試験場)*酒造好適米	平成12年4月
なつしずか(静岡県農業試験場)	平成13年4月
誉富士(静岡県農業試験場)*酒造好適米	平成21年4月
あいちのかおりSBL(愛知県農業試験場)	平成22年4月
にこまる(九州沖縄農業研究センター)	平成23年4月
きぬむすめ(同)	平成24年4月
葵美人(静岡県農林技術研究所)*もち米	平成28年2月

一方、県内で実際に作付された品種の作付比率を平成26年と平成30年で比較してみます。

コシヒカリの次に来る食用新品種

食味に優れた早生品種のコシヒカリは、お茶を兼業する農家から一番茶の摘み取り前に田植えを済ませたいという要望や、実需者のニーズが高いことから、今も県内シェア

品種名(熟期区分)	作付比率(%)	
	平成26年	平成30年
コシヒカリ(早生)	46.7	44.7
あいちのかおりSBL(晩生)	18.1	13.6
キヌヒカリ(早生)	12.1	7.8
きぬむすめ(中生)	5.9	14.3
ひとめぼれ(極早生)	4.6	3.9
にこまる(晩生)	3.2	6.2
ヒノヒカリ(中生)	2.1	1.2
山田錦(晩生)	0.7	0.9
あきたこまち(極早生)	0.4	0.2
ミルキークイーン(早生)	0.3	0.5
誉富士(晩生)	0.3	0.4
なつしずか(極早生)	0.2	0.2

お米好きの県民に選ばれる米を目指し、新たな米づくりに挑む静岡県の米産地。県の奨励品種に選ばれた米の変遷と、原種・原原種の採種栽培や新品種育成を手掛ける静岡県農林技術研究所水田農業生産技術科の活動を紹介します。

解説／静岡県農林技術研究所水田農業生産技術科 科長 亀山 忠さん



静岡県農林技術研究所三ヶ野圃場の田んぼ

亀山 忠さん

の約半数を占めています。

「一万つや姫（山形）、ななつぼし（北海道）、ゆめぴりか（同）、森のくまさん（熊本）」など、「脱コシヒカリ」の有力新品種が台頭してくると、県内でも米専業農家が、成熟時期が異なる複数品種を栽培し、生産性を上げようという意欲的な取り組みに挑戦しています。

地球温暖化の影響でさまざまな栽培リスクが増えた中、高温耐性型品種の導入が検討され、九州沖縄農業研究センターで開発されたにこまる、きぬむすめが奨励品種に採用されました。にこまるは平成30年産の米の食味ランキング試験（財）日本穀物検定協会主催において静岡県の米では初めて「特A」を取得。きぬむすめは収穫期がコシヒカリより1〜2週間遅く、にこまるより1〜2週間早い中生品種の特性が強みとなつて生産者が増加。静岡県主催のお米日本コンテストにおいて平成28年から30年まで3年連続、静岡県知事賞を受賞するなど食味の面でも高い評価を獲得しました。

近年、若干生産量が減少しているものの、依然として静岡県の主力品種の一つあいちのかおりSBLは、昭和7年に静岡県の奨励品種第1号に選ばれた「愛知旭」の系統。静岡県の気候や土壌との相性が良く、良食味で収穫量が見込める晩生品種です。粘り気が少ない反面、噛んでいるうちに旨味が増してくる大粒品種で、カレーや丼ものによく合うことから、業務用の大量需要にも適しています。

地域ブランドを担う酒米、もち米の有望品種

晩生では酒造好適米の山田錦、誉富士の需要が高まっています。とくに当研究所で開発し平成17年から現地試作が始まった誉富士は、同じく県で開発された清酒酵母「静岡母」と並んで地酒の地域性や独自性をアピールできる強みを持ち、県内で生産される清酒醸造量の約1割を担うまでに成長しました。目下、より栽培性、酒造適性に即した誉富士の改良や、異なるタイプの新品種育種に臨み、県内酒造会社の期待を担っています。

平成28年に奨励品種に登録された葵美人は、当研究所が平成7年から述べ11年がかかりで育種に成功した静岡県オリジナルの大粒もち米。上品な白色で、きめ細かく柔らかな食感の餅に仕上がりが、つきたてのきなこ餅や切り餅どちらの用途でも美味しく味わえます。蒸し上がったときにムラツとしたもち臭がなく、おこわ飯にも適すると評判です。

研究所では水稻の試験栽培、原種や原原種の採種栽培を行っています。これまでは奨励品種となり得る条件Ⅱ収穫量が多く、食味が良く、病害虫に強いオールマイティな品種の育種に注力してきましたが、育種に割く人員の制限等もあり、大型品種は他県や国にまかせ、静岡県ならではの地域ブランドとなり得る品種の開発に注力しています。誉富士と葵美人はその成果として、地元で末永く愛される品種に育てたいと願っています。

■問合せ 静岡県農林技術研究所水田農業生産技術科 TEL 0538・33・6678



山田錦(右)より米丈が短い誉富士(左)



管理するきぬむすめ原原種の母株



試験栽培(手植え)



きぬむすめ原原種の選抜



三ヶ野圃場の育種用実験ハウス



奨励品種のサンプル

米の種子

優良種子の生産と供給

優良種子の適正管理の重要性

米生産者が新たな品種を導入する際、重要になってくるのが種子。検査で合格した純正な種子を使わないと良質な米はできません。

種子は生産者が自家採種する場合、同一品種を同一圃場で作り続けるうちに突然変異が生じたり、周囲に交雑する条件がなくても雑種化し、品質が劣化し、収量も減るといふリスクがあるため、米、麦、大豆という主要農作物の種子に関しては、主要農作物種子法という法律のもと、県が主体的に生産管理してきました。

この法律が平成30年4月1日をもって廃止となり、自由化によって国内外の民間種苗業者が参入する状況となりましたが、静岡県では県と経済連・静岡県米麦協会がこれまでどおりの採種事業を継続し、静岡県の奨励品種の種子を適正管理し、地元のプロデューサーが安心して栽培に臨める環境を守っています。

菊川種子センターの役割

菊川市にあるJA静岡経済連菊川種子センターは、昭和51年、水稲優良種子の生産と供給をする施設として設立しました。

扱う種子は県内4地区（北駿、藤枝、菊川、袋井）にある種子生産組合で収穫された奨励品種の種子から作ります。

4地区の内訳は以下のとおり。

計	袋井	菊川	藤枝	北駿	生産組合	農家数	総面積	品種
39	3 <small>(内法大)</small>	7	14 <small>(内法大)</small>	15	静岡経済連 平成30年	19	ヘクタール	コシヒカリ、峰の雪もち
59	7 <small>(ヘクタール)</small>	13 <small>(ヘクタール)</small>	20 <small>(ヘクタール)</small>	19 <small>(ヘクタール)</small>				きぬむすめ、あいちのかおりSB、葵美人、誉富士
								コシヒカリ、きぬむすめにこまる、なつしずか
								コシヒカリ



米、麦、大豆の主要農作物を栽培する際、重要となるのが種子選び。生産者が安心して栽培できる環境を支えるべく、種の適正な管理や流通を担う静岡県米麦協会とJA静岡経済連菊川種子センターの活動を紹介します。

解説／静岡県米麦協会事務局長

古川信好さん

菊川市種子生産組合 組合長

八木明雄さん

JA静岡経済連菊川種子センター

松村雅史さん



種子センター全景

古川信好さん

松村雅史さん

八木明雄さん

優良種子を生産するには、
 ① 遺伝的に純正であり、異品種の混入がない
 ② 活力があり、発芽率が高い（水稲90%、小麦80%）
 ③ 粒が充実し、健全である
 という条件が必要です。採種圃場では穂揃い期と成熟期の2回にわたって審査が行われ、収穫乾燥後、種子センターに集められ、種子の選別と袋詰、出荷を行います。

ぶれない眼を持ち続ける

古川信好さんは経済連とともに静岡県優良種子生産の指揮を執る静岡県米麦協会事務局長として、採種圃場の指導や検査業務を担っています。「一年によっては高温障害に弱い品種に白未熟粒が多発し、高温に強い品種にやにこまると人気が集まり、種子が不足することもある。採種圃場でも気候条件は同じですから、適確な種子生産計画や検査指導体制が必須」と振り返り、「種つくりから積み重ねてきた技術力が、にこまるさめむすめの特A取得につながりました」と実感を含みます。

菊川市種子生産組合の八木明雄さんは「種籾は見た目では違いがわからない。実際に植えてみて出穂して初めて、もち米が一粒混入していたことが判るトラブルもある。交雑だけは避けるよう細心の注意を払います」と種子生産の苦労を語る方、「種の出荷現場にいると、農家の皆さんの期待の声をよく聞きます。ぶれない眼をしつかり持ち続けたい」と力を込めます。センターに常駐し、種子調整の大型設備を管理する松村雅史さんも「絶対に混種しないよう、また残粉がないよう、機械の清掃は1日4人がかりで徹底します」と管理責任者の矜持を示します。



種子のチェック

県内の米生産者が安心して良質な米を生産できるよう、縁の下の力持ちとして活動する種子生産者と種子センターの役割は、種子法自由化の波を受け、ますます重要になってくるでしょう。

■問合せ 静岡県米麦協会 TEL 0542849738



比重選別機



種子精選設備



誉富士の種籾



出荷を待つ推奨品種の種子



袋詰作業中の種子生産者

富士山と伊豆。 世界に誇る自然文化に 育まれた東部の米



御殿場市清後付近の圃場

静岡県東部地域は北駿、南駿、中伊豆等を中心に各エリアの気候風土に合った米作りが行われています。東部地域の米事情を県担当者に解説してもらいました。

解説／静岡県東部農林事務所生産振興課 課長 井草 茂さん

産地育成班技師 土屋寿樹さん

「このはなの恵み」「するがの極」「伊豆の恵」
これらは現在、静岡県東部で作られるブランド米の名前です。北駿、南駿、伊豆の各地域の生産者とJAGが丸となり、付加価値の高い米作りを力を入れています。それぞれの取り組みを通して、各産地の特徴を紹介しましょう。

米作りに賭ける北駿の底力

「このはなの恵み」はJAG御殿場の人気「当地米」ことんば「しひかり」の中で、化学農業・化学肥料を5割カットした5割培と食味値80点以上というハイスペック米に与えるトップブランドです。富士山本宮浅間神社に祀られる木花咲耶姫にちなんだネーミングで、キャッチコピーは「一粒ひとつが富士山のふとこ育ちです。命を育む女神・木花咲耶姫のふとこで健康に育つ米をイメージしました。」

富士山麓の標高3000〜6000メートルに位置する御殿場市、小山町は、温暖な静岡県の中では珍しく冷害を受けることもあります。栽培できる作物が限られる中、米作りはこの地の土地利用農業の生命線でもあります。北陸生まれの早生品種シヒカリが北駿の気候にマッチすることから、管内を統括するJAG御殿場ではシヒカリに特化した米作りを推進。現在、同エリアで栽培する米の9割がシヒカリとなっています。

北駿の大きな特徴は、早くから食味計を導入し、食味値向上の手段として生産者自身が生育過程の細かなデータを収集し、それを圃場に設置した看板で明示している点。本来、県農業試験場やJAG指導員が行うような生育管理を生産者自身が行っているのです。長年の取り組み実績が奏功し、お米日本コンテストでは第1回2004年から2019年までの16回開催中、静岡県知事賞を10回受賞しています。2015年と2018年には全国の上位6名に与えられる最高金賞を管内生産者が受賞。2018年はきぬむすめでの受賞だったため、「北駿の米はどんな米でもうまい」という



土屋寿樹さん



井草 茂さん



お米日本一コンテスト2019



「するがの極」試食イベント



JAなんすんの圃場



「伊豆の恵」の圃場



自動水管理システム「田門」を
設置した採種圃場

北駿の圃場に設置された
栽培データ看板



伊豆の恵

するがの極

このはなの恵み

認識も定着しました。
この地域は標高が高く水温が下がりやすい、また山麓傾斜地が多く水田畦畔の草刈りが重労働という環境的なリスクがあります。県では実績のある生産者の手法を参考に、入水時間の調整により保温を維持する自動水管理システム「田門」をメーカーの協力で開発し、御殿場市内の重点導入推進地域90%に普及させています。畦畔除草対策では、雑草種子を発芽させない効果があるモチビードグラス（ムカサシバ）の導入やリモコン型自動草刈り機の検討を進めています。
これら生産力向上技術の導入や土地基盤整備によって、生産性の高い米作りに専念できる環境を支援していきたいと考えています。

きぬむすめのブランド米「するがの極」

「するがの極」はJAなんすん管内（沼津市・裾野市・長泉町・清水町）で生産されるきぬむすめの厳選ブランド米。地域の米や産地を守ろうと、2016年からプロジェクトがスタートしました。

このエリアはもとも中生品種の作付が多く、これまではあいちのかおりを主力にしていましたが、徐々にきぬむすめの導入が進み、2019年に「するがの極専門部会」に属する21名の会員が約10.8ヘクタールできぬむすめを生産し、約48tを「するがの極」として販売しました。出荷にあたっては、部会を取り決めた食味値77点をクリアした「等米」に厳選し、パッケージは沼津西高校芸術科の生徒にデザインしてもらいました。
JAなんすんでは高精度水田センサーや精密な土壌診断を行い、施肥管理を徹底させるなど高食味値の維持を支援しています。

天城の森の湧水がもたらす米の恵み

「伊豆の恵」はJA伊豆の国が力を入れる伊豆市産コシヒカリの特別栽培米。伊豆半島初のプレミアム米として注目されています。

修善寺〜天城地区は天城の森の恵みであるミネラル豊富な伏流水のもと、先祖伝来の水田を維持してきました。しかし生産者の高齢化や担い手減少によって栽培面積も縮小し、伊豆の稲作文化と自然環境の保全が難しくなっており、この現状を改善すべくJAと生産者が立ち上がり、化学農業・化学肥料を5割以上カットする特別栽培による付加価値の高い米作りに挑戦。食味値75点以上をクリアしたものを「伊豆の恵」として販売し、伊豆半島のJA直売店、観光旅館、土産物店をはじめ、学校給食やふるさと納税返礼品などにも活用されています。

■問合せ 静岡県東部農林事務所生産振興課 TEL 0555-9202294

大井川扇状地に広がる 志太の米作り



焼津市東益津の圃場

静岡県中部地域では大井川の扇状地にあたる志太平野（焼津・藤枝・島田・吉田・牧之原）を中心に古くから稲作文化が発達しました。この地域の米事情を県担当者に解説してもらいました。

解説／静岡県志太榛原農林事務所生産振興課 産地育成班 班長 金田 智さん

志太平野の米の品種

志太平野は静岡県のほぼ中央にあり、大井川の扇状地に広がっています。古来より農耕がさかんで、国無形民俗文化財の「藤守の田遊び」（焼津市）に代表されるように農耕由来の神楽や文化芸能が今も伝わる地域。古くは農閑期に酒蔵へ出稼ぎに行く酒造職人集団「志太杜氏」も活躍しました。

駿河湾と南アルプスに接し、豊かな自然環境に恵まれるこの地は農業や漁業がさかんで、田畑では米以外にも茶、花卉、野菜、みかん等多様な産物を作っています。さらに鉄道や国道の開通によって物流拠点として発展し、戦後は大井川の豊かな伏流水を利用する食品加工業、化学、薬品工業、飲料分野の企業進出が進みました。

多様な二次産業・二次産業が林立する地域で米作りをいかに継承していくか、また級河川の扇状地という土壌特性に合った米作りをいかに進めるかが、この地の米生産者にとって特有の課題でもあります。

生産される米の品種はコシヒカリ約27%、あいちのかおり約26%を中心に、キヌヒカリ、きぬむすめ、そして酒米の誉富士が県全体の6割の担う主産地となっています。

県内他産地に比べてあいちのかおりが比較的多い理由としては、サラリーマン世帯が多く、共働きや単独世帯が増加傾向にある中、外食や中食、お弁当や加工食品のニーズが高いことから、多取性で食味もよいあいちのかおりの需要が安定していると思われま。今後は晩生のあいちのかおりより若干収穫期の早い中生のきぬむすめが有望で、現在収穫されているきぬむすめは全量が等級検査で合格するなど、土壌特性の適合も認められています。2013年のお米日本コンテストでは焼津産きぬむすめが静岡県知事賞を受賞し、生産者を大いに勇気づけました。

JAおおいがわでは県内産きぬむすめでは唯一、特殊な精米方法でヌカを除去した高付加価値米「金芽米」（無洗米）を発売し、他産地との差別化を図っています。



杉本芳郎さんによる
令和元年大嘗祭供納の御田植



焼津市東益津の圃場



大井川扇状地帯



国無形民俗文化財「藤守の田遊び」

静岡県の酒米「誉富士」の主産地

酒造職人集団「志太杜氏」の発祥地である志太平野は、今も7社の酒造会社が良い地酒を醸造する県内屈指の酒どころ。地元産の酒米に対する需要が高いため、30年ほど前から酒造好適米の山田錦や五百万石の栽培が行われました。

静岡県農林技術研究所が開発を手掛け、2005年から試験栽培が始まった誉富士は、静岡県では栽培適地が限られる山田錦に替わる県オリジナル酒米として期待が集まり、焼津市で山田錦や五百万石を栽培していた複数の生産者が「焼津酒米研究会」を結成し、誉富士の本格栽培に取り組んでいます。

2018年の誉富士生産量は県全体で222.9トン（3,715俵）、うち6割にあたる132.2トンを20戸のJAがおおしが管内生産者が担っています。

大井川扇状地の土壌に向き合う

大井川の扇状地は表層の土が50センチほどで、その下は砂利層になっており、水はけがよいという特性があります。水はけがよすぎると肥料も抜けてしまったため、肥料の与え方に工夫が必要で、乾きやすい表土に根をしっかりと育てる必要があります。

そんな土壌特性にしっかりと向き合う志太平野の米生産者。現在、藤枝市の2カ所で優良種子を生産する採種圃場が活躍するほか、2019年10月には静岡県を代表し、焼津市の杉本芳郎さんのナビカリが令和元年大嘗祭の献上米に選ばれて供給されるなど、管内米生産者の努力に脚光が集まっています。また担い手がなくなってきた水田では、高収益作物の代表であるレタスを植えるなど土地利用農業の継続に努めています。

大井川扇状地には栃山川水系の栃山川、成案寺川、東光寺谷川、木屋川、黒石川の5つの二級河川があります。住民は防波堤「千貫堤」や三角形の「舟型屋敷」を築くなど度重なる水害と相対し、河川改修や土地改良を繰り返しながら水田を維持し続けました。ふるさとの土壌を精一杯活かす知恵や工夫や精神は、新しい米作りや作物作りにも継承されていくものと期待しています。

■問合せ 静岡県志太榛原農林事務所生産振興課 TEL 0546449223

誉富士生産状況(2018年産)

	JA	なんすん	富士宮	静岡市	大井川	ハイナン	遠州夢咲	遠州中央	とびあ浜松	計
農家戸数	4	8	1	20	2	2	1	4	42	
面積 a	165	330	20	4,652	60	330	300	1,010	6,867	
生産量 t	7.2	10.3	0.9	132.0	2.5	13.4	12.6	44.0	222.9	

県内最大の穀倉地を 支える大規模農家



稲刈り



静岡県中遠地域は県内最大の水田面積を有し、大型機械の導入や水田の集約・大区画化が進み、大規模生産者が増えています。県を代表する米産地の最新事情を県担当者に解説してもらいました。

解説／静岡県中遠農林事務所企画経営課 課長代理 宮田 祐二さん

県内一の穀倉地帯を形成する大規模農家

中遠地域（磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町）には県内の約40%にあたるおよそ8,800ヘクタールの水田があり、3万トンの米を生産しています。担い手の中心は、40ヘクタールを超える大型農家。170ヘクタール規模の全国屈指の大規模農家もいます。

大規模化が進んだのは平成時代の約30年間でした。森林資源や里山が多く点在する当地では、古くから稲作の兼業として織物業を営む中小農家が存在し、昭和40年代には静岡・清水のみかん農家が参入。織物兼業農家に替わってもち米の生産を始め、作つたもち米を静岡・清水で売るといふ時代が続きました。

昭和50年代に入ると田んぼを工業用地に売却し離農する農家が増える一方、稲作一本で生計を立てる篤農家は他家に頭を下げてでも農地を買集め、徐々に面積を拡張しました。広い水田を活用するためには大型の農作機械が必要で、価格にして1,000万円単位の設備投資ができるか否かが大きなハードル。これをクリアした生産者が大規模化を遂げたのです。

ちなみに欧米製の2WDトラクターはトウモロコシ等の畑作物対応型。米作りに対応する前輪駆動の4WDトラクターは、国内メーカーが研究開発を積み重ね、高性能化させたものです。温暖で平地が多い静岡県中遠地域は農閑期の冬でも農機の試運転が可能などから、各メーカーが先端機械を持ち寄っては試作を行い、この地の生産者に刺激と意欲を与えました。

冬の積雪がほとんどない静岡県は、冬期にも各地で公共工事が行われます。農閑期の農家が期間従業員として就業し、稼いだ賃金を農機購入代や育苗ハウス整備費に充てることも可能。ということで、昭和から平成へ時代が進む中、この地のメリットを活かした意欲的な生産者が大規模化を成し遂げ、静岡県随一の穀倉地帯を築き上げたのです。



宮田祐二さん



稲の花



酒米誉富士の圃場を点検する宮田さん



中遠穀倉地



田植え



育苗



出穂時期



掛川コシヒカリ

高天神コシヒカリ

歓喜の風

究極のコシヒカリ

米を買うなら専門店へ

コシヒカリは原産地の福井・新潟以外の温暖な地域でも作ることができるように、各地で適した栽培法を開発し、全国品種へと成長したわけですが、ネックは乾燥すると食味が落ちるという点。風通しの良い中遠地域では乾燥を防ぐため、貯蔵庫の温度管理を徹底させています。

生産者は流通先でも低温倉庫管理ができる米穀専門店を自ら開拓し、時には生産者個人が店頭で販売キャンペーンを行うなど販促活動にも積極的。ほぼ県内消費される中遠の米は米穀店で7割、JAで3割という取り扱いになっています。品質管理に信頼の置ける米穀専門店やJA直売店を利用していただくことで、生産者が意図した品質の米が直に味わるものと思います。

中遠各JAのブランド米

JA遠州中央では化学肥料・農薬を半減させ、地域環境に優しい特別栽培米「味自慢コシヒカリ」と、全国指折りの厳格な栽培基準をクリアした森町産限定の「究極のコシヒカリ」が高い評価を得ています。またJA独自に品種選定を行った早生品種「歓喜の風」が、新たなブランド米候補として注目されています。

JA遠州夢咲では高天神城址周辺で栽培される特別栽培米の「高天神コシヒカリ」が美味しい米として支持されています。また袋のパッケージに掛川城をあしらったJA掛川市のブランド米「掛川コシヒカリ」も消費者に好評です。

水田の担い手を育てるために

ひと昔前のように毎食ご飯をしっかりと食するという日本人がなくなってきた状況をとらえ、今後は需要が見込める業務用米では魚食食なら「コシヒカリ」、カレーなら「あいちのおどり」、すし飯なら若い職人でも失敗が少ない「きらら」の古米、というように、消費者ニーズに応じたきめ細かい品種提案も必要になるでしょう。作付面積が拡大しているさぬむすめ、生産者の個性が際立つに、まる、今後、大規模農家が栽培に乗り出す酒米誉富士など、中遠でも有望な品種が揃いつつあります。

水田の担い手がいなくなれば、土や用水路が荒れ、周辺の畑作や施設農業にも大きな影響が及びます。お茶やみかんやいちごを作り続けるためにも、水田の適正な維持管理は不可欠です。消費者に喜ばれる品種を供給し、規模を拡大して経営効率を高め、若い世代が米作りを継承したいと思える環境づくりを担う中遠大規模農家は、静岡県農業の未来を背負うキーパーソンといえるでしょう。

■問合せ 静岡県中遠農林事務所企画経営課 TEL 0538372259

質・量ともに高みを目指す 大消費地の生産者

静岡県西部はご飯食を好む浜松の消費活動に支えられ、各産地で付加価値の高い米作りに挑んでいます。浜松周辺の米事情を県担当者に解説してもらいました。

解説／静岡県西部農林事務所生産振興課産地育成班 班長 石田 義樹さん

大消費地浜松の市民の胃袋を支える

浜松市は全国家計調査の米の購入に関する全国順位(2016〜2018年の平均)で購入金額が全国5位、購入数量が4位という米の大消費地。県西部エリアの米作りは、米を愛する遠州っ子の胃袋を満たす貴重な産業といえます。

当地は水田と宅地の混在化が多く見られ、比較的小規模農家が多いエリアですが、浜松市郊外の3地区(細江、雄踏、浜北)水田利用調整協議会など農地集積を積極的に推進する団体の働きによって、徐々に大規模農家が増加しつつあります。

昭和63年には稲作の生産性向上と農業経営合理化を目指す生産者集団「西部稲作経営研究会」が発足しました。米の生産者団体で、経営の二文字を入れた団体は過去に例がなく、新しい手法の導入に積極的。最近ではドローンによる直播き実験を行い、話題を集めました。

研究会が発足した昭和末〜平成初頃は米がよく売れた時代でしたが、米の消費が徐々に落ち込み、美味しい米でなければ売れないという危機感を持った比較的規模の大きな生産者が2009年に浜松地域特別栽培米研究会を結成。浜松初のブランド米「やら米か」の生産を始めました。

地域で結束する生産者団体

「やら米か」はコシヒカリ、にこまる、きぬむすめ等のうち、化学農薬・化学肥料を5割以下までカットした特別栽培米で農産物検査1等かつ食味計80点以上の基準を満たした米に与えるブランド。毎年各圃場ごとに玄米サンプル質量分析を行うなど安心安全と美味しさの両立を目指し、J・Aとびあ浜松ファーマーズマーケット等で人気

石田 義樹さん



「やら米か」の試食会



消費者との試食会



浜北米人達



ドローンによる直播き実験



「やら米か」ファーマーズ販売風景



特別栽培米「陽の娘」

を集めています。2010年からは浜松市立の全小中学校、幼稚園に給食として提供しています。

「陽の娘(ひのつこ)」は浜松地域特別栽培米研究会の有志が2017年から遠鉄ストアで販売を始めた特別栽培米。食味の良さが認知され始めたきぬむすめ、子育て世代に手軽に味わってもらおうと、愛らしいパッケージデザインと手頃な価格でアピールしています。

このほか北区細江町内では2008年に細江地域特別栽培米研究会が結成され、糸里制の名残が残る美しい水田の継承と安心安全の米を地元の人々に食べてもらおうとエ栽培の技術向上に努めるほか、浜北地区でも2013年に若手稲作農家が浜北米人達(はまきたこめつ)を結成し、食味向上に取り組んでいます。

浜北米人達の初代会長野末典秀さんは2016年のお米日本コンテストにきぬむすめを出品し、見事静岡県知事賞を受賞。2017年から静岡山田錦研究会会長にも就任し、地元の酒造会社が求める地元産山田錦の供給を担っています。

食味ランキングで特A取得

米の大消費地浜松を支えるこの地域では、あいちのおかりが最も多く作られ、コシヒカリ、きぬむすめが続きます。

2015年にJ-Aとびあ浜松の指導で食味計が導入されたからは品質向上への意欲が高まり、お米日本コンテストでは2015年から2018年まで浜北米人達の生産者がきぬむすめで金賞、入賞を果たしました。また日本穀物検定協会食味ランキングでは西部地区のにこまるが2018〜2019年の2年連続で特Aを、2019年にはきぬむすめも特Aを取得し、大いに話題を集めました。

大消費地のお米好きに量でも質でも満足感を与え続けよう、顔の見える地域内で互いに切磋琢磨し、技術向上に努める西部地区の生産者。彼らの働きがふるさとの土地の豊かさを継承する原動力になっています。

■問合せ 静岡県西部農林事務所生産振興課 TEL 053・458・7215



PRESENT

スマイル読者プレゼント

静岡県産「きぬむすめ」または「にこまる」を 5名様にプレゼント!

食味ランキングで最上位「特A」を獲得した
静岡県産「きぬむすめ」または「にこまる」
いずれかのお米5kgをクイズ正解者の中から
抽選で5名様にプレゼントいたします。
ふるってご応募ください。



※写真はイメージです。

当選者の長期不在や、お届け先住所が不明等の理由により、賞品のお届けができない場合は、ご当選を無効とさせていただきますので、予めご了承ください。

QUIZ クイズ

【問題】

静岡県のお米は、県内で生産される農作物のうち第何位の生産額をあげているでしょうか?

- A…第2位
- B…第3位
- C…第4位



A~Cの中から正解を選んでください。(60号の答え：C…テアニン)

応募方法

ハガキに①クイズの正解②郵便番号③住所(棟・部屋番号まで正確に)④氏名(フリガナ)⑤年齢、性別、職業、電話番号⑥S-mailの入手先⑦ご感想をお書きの上、下記宛に郵送してください。S-mailやJA静岡経済連へのご意見などもお待ちしております。

●宛先

〒422-8620
静岡県静岡市駿河区曲金3-8-1
JA静岡経済連 企画管理課
S-mail プレゼント係

応募締切：令和2年7月31日(金)

※応募内容は楷書にてはっきりと正確にお書きください。特に名前やアパート名、部屋番号の書き忘れなどが多く見受けられます。ご注意ください!

※プレゼント応募者には次号を送付いたします。

※当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

※なお、お寄せいただいた個人情報は、編集の参考および当選者への商品の発送、次号本誌の発送、それに付随する業務の範囲内で使用いたします。

切手 〒422-8620

静岡県静岡市
駿河区曲金3-8-1
JA静岡経済連
企画管理課
S-mail
プレゼント係

- ①クイズの正解
- ②郵便番号
- ③住所
- ④氏名(フリガナ)
- ⑤年齢、性別、職業、電話番号
- ⑥S-mailの入手先
- ⑦ご感想



【お詫言】本誌60号2ページの記載に誤りがありました。3行目「静岡県南上金部町」を「静岡県南上金部町」と訂正し、お詫言申し上げます。